



2017年 夏目漱石生誕150周年
新宿区夏目漱石記念施設整備
プロジェクトVol.1

夏目漱石と 「現代を生きる」



ともに創ろう、（仮称）「漱石山房」記念館



～姜尚中氏講演とシンポジウム～

- 第1部** 講演 「漱石と現代」
 講師：姜 尚中（政治学者・聖学院大学全学教授）
 《音楽演奏》 ちょっと一息…「漱石も聴いたクラシック」
- 第2部** シンポジウム
 「ともに創ろう、（仮称）「漱石山房」記念館」

日時
 平成25年7月14日(日)
 午後2時 開演
 (午後1時30分 開場)

会場
 早稲田大学大隈記念講堂
 大講堂



夏目漱石と「現代を生きる」開催にあたって

新宿区夏目漱石記念施設整備プロジェクトVol.1夏目漱石と「現代を生きる」にご来場いただき、ありがとうございます。

新宿区では、漱石生誕150周年となる平成29年2月の開館に向けて、(仮称)「漱石山房」記念館を早稲田南町の山房の跡地(現在の区立漱石公園及び区営住宅敷地)に整備します。漱石にとって初の本格的な記念施設であり、土地の記憶に結びつく「漱石山房」を一部再現するとともに、漱石を発信する活気ある事業活動を行い、多くの人々に何度も訪れていただける記念館を目指してまいります。記念館の整備にあたっては、国民的文豪漱石にふさわしく全国の漱石ファンの皆様にもご参画いただきたく、「夏目漱石記念施設整備基金」を設置しました。是非、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。いただいたご寄付は、記念館の建設と資料の購入に活用いたします。

本日の第1部は、漱石の愛読者であり、ベストセラーとなった『悩む力』でも漱石を大きく取り上げている姜尚中さんの講演「漱石と現代」、終了後には漱石も聴いた素晴らしいクラシックの演奏、第2部では、記念館建設にご賛同いただいたパネリストの方々から漱石や記念館への思いを伺います。

最後までごゆっくりお楽しみいただき、現代に生きる漱石へ思いを馳せ、記念館への夢を皆様で共有していただければ幸いです。

新宿区長 中山弘子

第2部 シンポジウム 「ともに創ろう、(仮称)「漱石山房」記念館」

Panelist



©今村拓馬

姜尚中 (政治学者・聖学院大学全学教授)

プロフィールは前出



半藤 一利 (作家)

昭和5年(1930)東京都生まれ。東京大学文学部卒業後、文藝春秋入社。「週刊文春」「文藝春秋」編集長、専務取締役、同社顧問などを歴任。『日本のいちばん長い日』『日露戦争史』『幕末史』など著書多数。平成5年(1993)『漱石先生ぞな、もし』で第12回新田次郎文学賞、平成22年(2010)『ノモンハンの夏』で第7回山本七平賞、『昭和史』で毎日出版文化賞特別賞をそれぞれ受賞。



半藤 末利子 (エッセイスト)

昭和10年(1935)東京都生まれ。上智大学比較文化科卒。夏目漱石門下の作家・松岡譲と漱石の長女・筆子夫妻の四女。著書に『夏目家の糠みそ』『漱石夫人は古い好き』『夏目家の福猫』『漱石の長襦袢』など。平成24年度に実施した(仮称)「漱石山房」記念館整備検討会には特別委員として参加した。



中島 国彦 (早稲田大学文学学術院教授)

昭和21年(1946)東京都生まれ。早稲田大学文学部卒、同大学院博士課程修了。同大学文学部専任講師、助教授を経て現職。文学博士。平成7年(1995)『近代文学にみる感受性』でやまなし文学賞受賞。共著に『夏目漱石の手紙』。平成24年度に実施した(仮称)「漱石山房」記念館整備検討会では座長を務めた。



中山 弘子 (新宿区長)

昭和20年(1945)台湾生まれ。日本女子大学文学部卒。東京都に就職し、生活文化局消費生活部長、人事委員会事務局長、監査事務局長などを歴任。平成14年(2002)11月新宿区長に就任し、現在三期目。「漱石山房の復元に向けた取組み」をmanifestoに掲げて推進している。

Coordinator



牧村 健一郎 (朝日新聞社記者)

昭和26年(1951)神奈川県生まれ。早稲田大学政経学部卒業。朝日新聞社に入社。校閲部、アエラ編集部、学芸部(現文化くらし報道部)などを経て、現在be編集部。著書に『新聞記者夏目漱石』『旅する漱石先生』など。平成24年度に実施した(仮称)「漱石山房」記念館整備検討会には委員として参加した。

第1部 講演 「漱石と現代」



姜尚中 Kang Sang-jung (政治学者・聖学院大学全学教授)

昭和25年(1950)熊本県熊本市生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科博士課程修了。旧西ドイツ、エアランゲン大学に留学の後、国際基督教大学助教授・準教授、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授などを経て現職。専攻は政治学、政治思想史。テレビ・新聞・雑誌などで幅広く活躍している。主な著書に『オリエンタリズムの彼方へー近代文化批判』『マックス・ウェーバーと近代』『ナショナリズムの克服』『姜尚中の政治学入門』『日朝関係の克服』『在日』『ニッポン・サバイバル』『愛国の作法』『悩む力』『母〜オモニ』『心』など。

音楽演奏

ちょっとひと息…「漱石も聴いたクラシック」

漱石が、様々な文化芸術に関心が高かったことは、よく知られています。洋楽に関してはイギリス留学時にも音楽会に行っていますが、帰国後は音楽通であった弟子の寺田寅彦に誘われ、東京音楽学校奏楽堂の音楽会も聴きに行きました。漱石の長男・夏目純一(1907~99)は音楽の道に進み、ヨーロッパ留学を経て、戦後は東京フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターとなりました。今日は、現在、東京フィルハーモニー交響楽団のソロ・コンサートマスターを務める荒井英治氏に、漱石も聴いたと考えられるベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタと、漱石と同時代のイギリスの作曲家エルガーの作品を演奏していただきます。

- ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)
ヴァイオリン・ソナタ第5番 ヘ長調『春』作品24 ~ 第1楽章(Allegro)
- エドワード・エルガー(1857~1934)
『愛の挨拶』作品12



荒井 英治 (ヴァイオリン)

桐朋学園大学に学ぶ。新星日本交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターを歴任し、現在は東京フィルハーモニー交響楽団ソロ・コンサートマスター。モルゴア・クァルテットのメンバーとして室内楽でも活躍。独奏者としても、バッハからショスタコーヴィチ、リゲティに至る数多くの協奏曲を著名指揮者と共演する。東京音楽大学教授。



奥村 恵美 (ピアノ)

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。第1回ブルクハルト国際音楽コンクール奨励賞。第11回ペトロフピアノコンクール大学生・一般部門第4位。日本テレビ24時間TVチャリティコンサート、埼玉医科大学国際医療センターでのソロ・コンサートを開催するなど、意欲的にボランティア活動も行っている。めぐみピアノ教室上尾校・三芳校を主宰。日本演奏連盟会員。